

1 内政

比の Forever Lucky 号のオペレーター逮捕される

6日、ヤップ州で開催予定のマイクロネシアンゲーム関係者用の宿泊施設としてヤップ州に派遣される予定だった比 Fahrenheit 社所有の Forever Lucky 号のオペレーターが比のバターン港を出港する際に比当局によって逮捕された。船には139名の登録されていない客が乗船しており、同船が違法な人身売買を行っているのではないかと嫌疑がかけられている模様。Forever Lucky 号の船主はそのような事実はないと否定している。

（7月9日付 カセリエプレス紙）

FSM、人権擁護対応で進展を見せたが、更なる努力が必要と米 국무省が報告

4日、米 국무省は各国の人権の取り組みに関する監視報告書を公表し、その中でミクロネシア連邦（FSM）は昨年に比べわずかに改善は見られたものの更なる改善努力が必要として昨年同様に下から2番目の下位グループに位置づけられた。報告書によれば、いくつかの人権に係わる裁判において当初要求よりもはるかに軽い刑に処されたり、また、いくつかの重要な点でFSMは人権擁護に関する最低限の基準を満たしていないと述べている。

（7月9日付 カセリエプレス紙）

州教育省と Raise Your Text 社が協力して教師の授業実施率を上げる取り組み

13日、ポンペイ州政府の発表によれば、ポンペイ州公立学校の5～7%の教員が授業に出ていないことが分かった。ポンペイ州の生徒ならば誰もが教師が授業に出てくるのに数時間待たされた経験を有している。教師がいないのではなく、教師が授業を行わないためである。代わりに他の教師が授業を休んでいる教師のクラスを受け持つには一度に60人以上の生徒の面倒をみる必要が生じ、対応は困難である。当地ではこのような状況は珍しいことではなく、ポンペイの教育環境はますます悪化している。このような状況を改善するため、州教育省と Raise Your Text 社が協力して、もし教員が授業に出てこない場合、生徒や保護者、教員、地域のコミュニティのメンバーの間でテキストメッセージを交換し、いつ教師が授業に出てこなかったか報告すると共に、今後の学校行事予定などを生徒に知らせる試みをいくつかの小学校においてパイロット的に開始し、教師の授業実施率の改善の手助けになることが期待されている。

（7月23日付 カセリエプレス紙）

2 外交

クリスチャン大統領のインドネシア訪問

6日、クリスチャン大統領は、FSM大統領として初めてインドネシアを訪問し、ウィドド大統領と首脳会談を行った。会談では、インドネシア政府がFSMの学生に対しインドネシア留学のための奨学金を付与することや、インドネシアがFSMに領事館を設立すること、また、双方の外交旅券保有者に対し査証の相互免除が合意された。また、島嶼間飛行用のインドネシア製飛行機N219のFSMへの売却が話し合われた。

(7月20日付 ヤップニュース (ラジオNZからの引用))

ライリー駐ミクロネシア米国大使、新たなコンパクトの締結はないと説明

19日、ライリー米大使は、チューク州にて公聴会を行い、チューク州が独立して新たな国家となったとしても米は右との間で新たなコンパクトを結ぶことはないと明言した。詳細は往電第441号を参照。

(7月23日付 カセレリエプレス紙)

黄 (Huang) 駐ミクロネシア中国大使、ヘンリー資源開発大臣と懇談

30日、黄 (Huang) 駐ミクロネシア中国大使はマリオン・ヘンリー資源開発大臣とFSMとの観光協力につき意見交換を行った。黄大使は、観光は中国とFSMの主要な協力分野の一つであり、明年の中国とFSMの国交30周年に向けて一層の協力を進めていきたいと述べた。これに対してヘンリー大臣は、FSMは観光資源が豊富であり、エコ・ツーリズム政策を通して観光開発と環境保護のバランスを考えている。FSMは中国人観光客を歓迎しており、中国がホテルや他の観光インフラへの投資をすることを期待していると述べた。

(7月30日付 当地中国大使館HP)

3 経 済

監査がインフラ維持ファンドの不適切で認められない支出を証明する

ポンペイ州監査局によって実施された2012年度～2016年度を対象とした会計監査によって、多数の法律に準拠しない怠慢な事業の実施例が見つかった。米国とのコンパクト (自由連合盟約) に基づき設立されているインフラ維持ファンド (IMF) と呼ばれる基金があり、同基金には、毎年、米国とミクロネシア連邦が年間の公共インフラ交付金の額の5%を充当することになっている。この基金はポンペイ州のインフラ整備計画に基づき執行されるが、執

行にあたっては、ポンペイ州議会の承認が必要である。しかしながらポンペイ州監査局は2012年度～2016年度にかけて、29のプロジェクト実施に係る1,311,942.80ドルが同議会の承認無しに使用されたと指摘した。また、基金使用に係る管理の弱さや使用記録などの必要書類管理に係る問題を指摘した。

(7月4日付 カセリエプレス紙)

ポンペイ港入港数増加

NORMA（国家海洋資源管理局）は直近3ヶ月（4月～6月）のポンペイ港における荷物の積み替えと荷下ろしの量が安定して増加していると報告した。その報告によると4月（26隻）、5月（53隻）及び6月（74隻）の合計で115,093トンのマグロの積み替えが行われた。ポンペイ港はミクロネシア4州の中で最も積み替えが活発に行われる港であるが、ラニーニャ現象によって、マグロの漁場が西部熱帯地域に集中する傾向があることが要因の一つと考えられている。

(7月23日付 カセリエプレス紙)

4 経済協力

米内務省、250,314米ドルをグアムのミクロネシアリソースセンター・ワンストップショップに供与

ワンストップショップはFSMを含む、自由連合盟約を結んでいる国からの移民に対し、オリエンテーションサービスや家族サポート、就職サポートなどを行っており、開所から今年で3年が経つ。

(7月9日付 カセリエプレス紙)

水供給プロジェクト、首都パリキールからキチ地区へ延長

25日、米国、FSM連邦政府及びポンペイ州による共同プロジェクトである“配水管設置プロジェクト（セケレ地区～キチ地区）”が正式に開始された。同プロジェクトは5年前に始まったが、建設業者が入札方法に疑問を持ち、訴訟を起こしていた（その後訴訟は棄却）。640万米ドルのプロジェクトはコンパクト資金によって賄われ、米陸軍工兵司令部とポンペイ・プロジェクト管理オフィスがプロジェクトを策定した。2年後の完成を目指す。プロジェクトの設計はLyon Associates Incが行い、工事はABCOR Engineering and Constructionが行う予定。

(7月25日付 カセリエプレス紙)

トランプ米大統領、ミクロネシア連邦に対し、「災害宣言」を発出

19日、トランプ米大統領は、今年3月16日～17日にかけてFSMで起こった暴風、洪水、土砂崩れに対し「災害宣言」を発出した。

これはクリスチャン大統領により本年6月13日に要請されたもので、この宣言により米政府の緊急援助・復興支援が可能となる。

(7月20日付 カセリエプレス紙)

5 文化・教育

第9回マイクロネシアンゲームがヤップで開催

7月、ヤップ州で第9回マイクロネシアンゲームが開催された。金メダルの獲得数別では、1位のパラオの32を筆頭に、2位・3位はマーシャル及びグアムが同数の29、そして4位にポンペイ州の18が入った。8月3日、ポンペイ州派遣の選手団がポンペイに戻った際はクリスチャン大統領他数百人が空港に出迎えた。次回第10回マイクロネシアンゲームはマーシャルで行われる予定。

(8月6日付 カセリエプレス紙)

第242回、米独立記念祝賀レセプションが米大使館で開催

4日、米の独立242周年を祝う祝賀レセプションが当地米大使館で盛大に行われ、FSM連邦政府やポンペイ州政府の要人、外交団他多数が出席した。